

時間を旅する絵本
「京都岡崎の文化的景観」

1

洛東にできた都市の広場

岡崎公園



きゅうせつき じょうもん
旧石器～縄文時代

むかし、むかし、あるところに、ひとすじの川がありました。

川は、ふたつの山の間のやわらかい岩はだを流れ、
白い白い砂を運んでいました。

やがて川下には運ばれた砂がたまって、土地のでこぼこをうめ、
広くて平らな土地が生まれました。

後に川は「白川」、ふたつの山は「比叡山」「大文字山」と呼ばれます。

まだ名もない「岡崎」の生まれたばかりの姿でした。



やよい

弥生時代

稲は、水気みずけの多い土地でよく育ちます。米づくりを知った人々は、白川ぞいのじめじめした土地に目をつけ、川の水を上手に引いて田んぼをつくりました。少しはなれた場所には家をたて、米をたくわえる倉庫ぐらもつくりました。この土地に初めて村ができたのです。周りには大きなみぞをほって、大水おおみずや外敵がいてきから村を守りました。村のそばには亡くなった人のための四角いお墓かみもつくられました。どこにでもある、ちいさなちいさな村でした。



へいあん

平安時代

広くて平らな土地は、都市としても使いやすい場所です。
1200年前、京に都が移って平安京と名付けられたとき
ここはその外側の村でしかありませんでしたが、
やがて、そこに平安京から道がのびてきました。
都とまっすぐつながる東西のメインストリート、二条通です。

そのほかの道もたてよこに規則正しく通され、四角く区切られた土地には
「六勝寺」とよばれる6つの巨大な寺院のほか、
貴族の別荘がいくつもできてにぎわいました。
大きくなっていく都を支える、
第二の都のような役わりを果たしていたのです。



むろまち えど
室町～江戸時代

戦がくりかえされる武士の世になると、ほとんどの寺院が焼かれたり、こわれたりしてすがたを消していき、そのあとは、また田畑になりました。都にもっとも近い農村としての「岡崎村」の時代がながらく続きます。岡崎村の人々は、都で大量に出る肥を畑にまいて良い土をつくり、やがて聖護院大根や聖護院かぶらといった京野菜を生み出します。都のすぐそばで、その食文化を支えたのです。



明治・大正・昭和初期

田畑がひろがる岡崎村に「近代」の波がおしよせてきました。

琵琶湖疏水びわこそすいができると、岡崎の広大な農地は、

多くの人が集まることのできる場として、またたく間に開発が進みます。

東山のながめが楽しめるこの広々とした場所では、

国内のすぐれた品々を集めた博覧会はくらんかいが何度もひらかれました。

平安神宮や動物園や図書館など、

せまい町のなかでは造れないものが

次々と岡崎に造られ、京都の近代化を支えました。



現在

こうして現在の岡崎公園ができてきました。

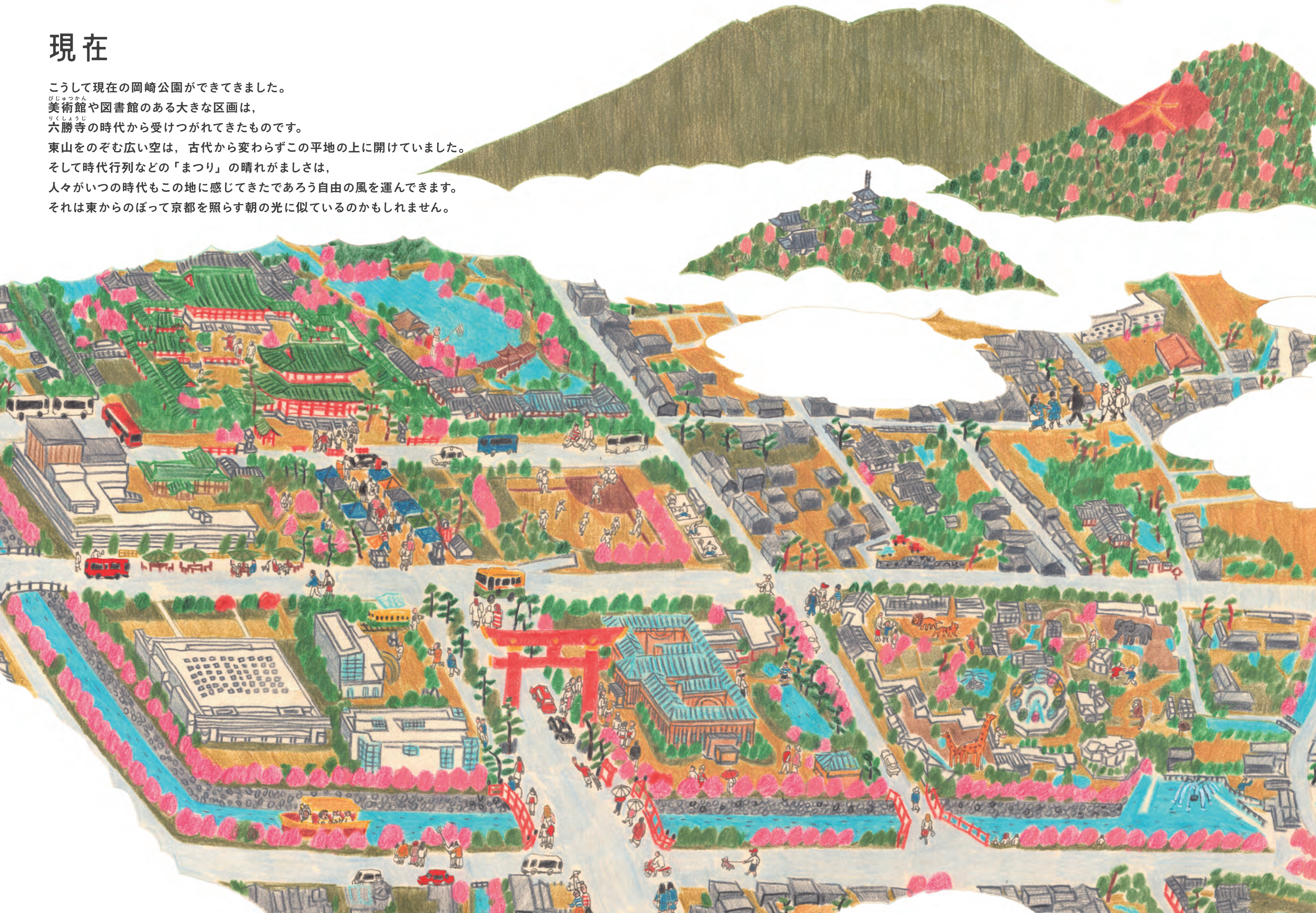
美術館や図書館のある大きな区画は、
六勝寺の時代から受けつがれてきたものです。

東山をのぞむ広い空は、古代から変わらずこの平地の上に開けていました。

そして時代行列などの「まつり」の晴れがましさは、

人々がいつの時代もこの地を感じてきたであろう自由の風を運んできます。

それは東からのぼって京都を照らす朝の光に似ているのかもしれない。



岡崎公園の旅

旧石器～縄文時代

約2万年前



岡崎公園の基盤である白川扇状地の形成には東山の地質が大きく関わっています。比叡山と大文字山の間の山並みは花崗岩でできていますが、地表で風化が進んだ花崗岩は非常にもろく崩れやすく、ここから大量の砂が押し流されて白川扇状地ができました。その砂は石英や長石等の白っぽい鉱物を多く含むために、色が白く、後には白川砂と呼ばれて庭園で多用されます。「白川」という名前も、たまった砂で川底が白く光っていたことによるのでしょう。この頃は幾筋もの細い流れが網の目状に流れ、ひんぱんに流路を変えていたと考えられます。じめじめとした湿地帯は流砂の堆積によって長い年月をかけて砂地になっていきました。また、2万数千年前には、このあたりにオオツノジカ(偶蹄類)がいたことがわかっています(京都市動物園の敷地から足跡が発掘されています)。

弥生時代

約1800年前



弥生時代になると、岡崎公園一帯に人が定住するようになります。これまでの発掘調査では、京都市勧業館みやこめッセや武道センターのあたりに方形周溝墓(周囲に溝をめぐらせた方形の墓)があったこと、岡崎グラウンドの東半から京都市美術館の入口側にかけて白川の流路があったことがわかっています。住居や水田の跡は未発見ですが、ロームシアター京都のあたりに住居が、白川沿いの湿った土地に水田があったと想定できます。居住域と白川流路の間には堀のような溝が見つかっており、水害や外敵から村を守るためのものではないかと考えられています。なお、弥生時代の次の古墳時代になると、岡崎グラウンドの南端に2基の古墳が築かれ、そのうちのひとつは鶴塚(ぬえづか)と呼ばれて昭和30年代まで残っていました。平安時代以後のイラストで探してみてください。

平安時代

約900年前



この頃の岡崎は「白河」と呼ばれ、平安時代前～中期には風光明媚な別荘地として好まれました。その後、平安時代後期には六勝寺や院の御所が建ち並び、平安京(洛中)の副都心のような役割を果たしました。ひときわ目を引くのが、後に院政を始める白河天皇が建てた法勝寺です。六勝寺の筆頭寺院で、後には、「鹿ヶ谷の陰謀」で有名な僧の俊寛が実務長官を務めたこともあります。池の中島には高さ81mの八角九重塔がそびえ、その北側には巨大な金堂が高い基壇の上に建っていました。副都心としての岡崎は鎌倉時代になるとその機能を失い、室町時代半ばの応仁の乱によって建造物は大半が姿を消します。ですが、この時代の大規模な地割と雑壇状の土地造成はその後もいくつかの通りとして継承され、以降、現在にいたるまで、岡崎の土地利用を規定しています。

室町～江戸時代

約200年前



天下統一を果たした豊臣秀吉は、市街地周囲に御土居をめぐらすとともに区画整理をし、大規模な京都改造をおこないます。市街の内と外が線引きされ、岡崎は明確に「洛外」となりました。都市機能はうすれ、東山を背にした農村となり、岡崎は都市近郊の農産物供給地としての性格を強めます。そこでは元祖ビニールハウスともいえる油紙を使った促成栽培が早くもおこなわれていました。六勝寺はすっかり姿を消していますが、法勝寺の金堂基壇や八角九重塔基壇の高まりに痕跡をとどめ、満願寺境内には法勝寺の井戸と伝えられる井戸が残っています。また、江戸後期～末期の岡崎には小沢蘆庵、上田秋成、香川景樹、大田垣蓮月、富岡鉄斎ら文人墨客が集まり鴨東文化村を形成していました。その後、幕末期には大規模に藩邸が建ち並び、明治維新後は再び田畑に戻ります。

明治・大正・昭和初期

約100年前



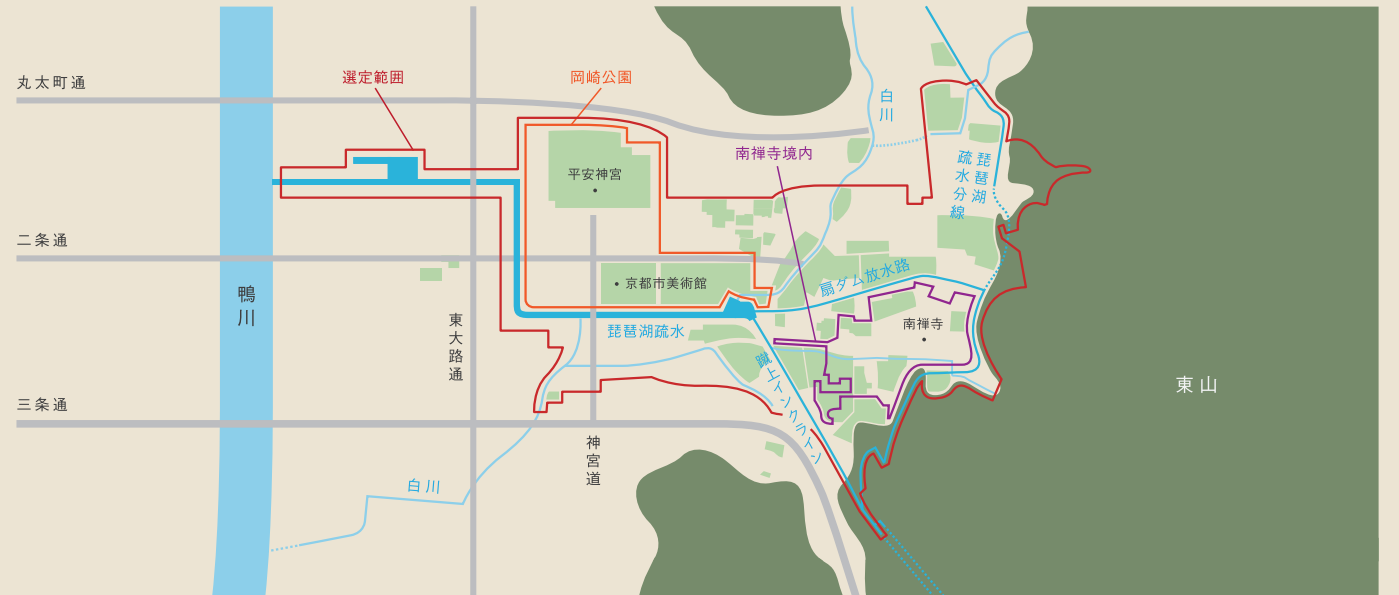
封建制から民主制へ。劇的な近代化のなかで、京都は初めて公共空間としての広場・公園をもちました。岡崎は、明治28(1895)年の第四回内国勧業博覧会・平安遷都千百年記念祭以降、京都を代表するパブリックスペースとして、お祝いや式典のたびに人が集う祝祭空間としての性格を塗り重ねていきます。大正4(1915)年には、天皇の即位を祝う大典記念京都博覧会が開催されました。10-11頁では、昭和3(1928)年の大札記念京都大博覧会の様子を描いています。博覧会期間のみの仮設の建造物もあれば、現在まで続く建築・施設もあります。また、古墳時代からある塚(鶴塚)を避けるように建物が配置されていました。新たな様式が試みられては淘汰されていく、仮説と検証の場所でもあったといえるでしょう。何が変わり、何が残ったか、12-13頁の現在の岡崎と見比べてみてください。

現在



新年には平安神宮に初詣に出かけ、休日は京都市美術館やロームシアター京都で芸術・文化に親しみ、京都市動物園では動物とふれあう。そうした非日常の楽しみを、東山への眺望や広いオープンスペース、美しい街路樹、琵琶湖疏水や白川の流れが豊かに包み込む。現在の岡崎公園は、人々が様々な目的で集う「都市の広場」であり、「景勝の地」でもあるのです。こうした〈岡崎らしさ〉は、近代において突如現れた訳ではありません。弥生時代以来、白川扇状地の恵まれた環境を活かして人が住み続けてきた結果が「いま」なのです。現在の様子を改めて見てみると、いくつもの機能が存在し、わたしたちの人生の多くの場面に関わっていることが分かります。そうなった理由を、背景に見え隠れしている歴史の積み重なりから探してみてください。きっと新しい発見があるはずですよ。

重要文化的景観「京都岡崎の文化的景観」



岡崎地域で大切にしていきたいことは3つあります。1つ目は、京の都を支える美しく質の高い場所であり続けていくことです。2つ目は、歴史ある大きな区画や広々とした道を保ち続けていくことです。3つ目は、白川や琵琶湖疏水の水を使い続けていくことです。京都市では、六勝寺や琵琶湖疏水ができる

ことによって生まれた、こうした岡崎の風景を、これからもずっと守っていきたくて考えています。平成27年10月には、東山から鴨川にかけての岡崎の広い地域が、「京都岡崎の文化的景観」という名前で、重要文化的景観という国の文化財のひとつに選ばれました。



時間を旅する絵本「京都岡崎の文化的景観」Ⅰ
岡崎公園^{らくとう}－洛東にできた都市の広場－

発行：京都市文化市民局文化芸術都市推進室 文化財保護課

編集：独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所 文化遺産部景観研究室

協力：藤井容子（京都岡崎魅力づくり推進協議会）

イラスト：望月梨絵

デザイン：赤井佑輔 (paragram)

平成29年3月31日

—
京都市印刷物 第283227号



京都市
CITY OF KYOTO

